

シズメシズメ

マグロトロ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんか書きたくなったから前日談？

どの深海棲艦だと思つてくれても大丈夫だと思います。

自分でも分から無いので叩いてください。

どうでもいいけど翔鶴姉可愛いよね（唐突）

シズメシズメ

目

次

シズメシズメ

その歌は私が私じやなかつた頃からも私の頭の中で響いていた。

目を覚ましたのは希望すら残らない深淵の向こう。優しい声が私の中で歌う、それは怨念？それとも鎮魂歌？

やがて思い出は音を立てて焼け落ちる、海が血のように赤く染まる。

「シズメ シズメテ シズメ シズンデ シズメ」

優しい声は狂つたように同じ言葉を繰り返す、私は私、私が私であるように声も運命を繰り返す。

もう顔も思い出せないがあの日共に海を駆けた彼女の声だけが呪いのように頭から離れない。

それは悲鳴？それとも怒り？あの海での記憶だけがポツカリと失われる。

あの日私は何を願つたんだろう、記憶が剥がれ落ちて、崩れ落ちる。

残つた記憶の炎は悪夢のように全てを溶かしていく。

光すら届かない此処ならもう苦しむ事は無い、全てを忘れてても無数の命と平和な海で

生きていくのだろう。

悪夢の様な怨嗟の渦は消えない、それは全てを飲み込み数多の願いをかき消すだろ
う。

目の前に広がるのは生き地獄、死ぬ事すら許されない痛みが全てを飲み込む。
差し伸ばした腕はどうに朽ち果てた。水面に映つた自分の姿はあまりにも歪で、醜
な姿だった。

何度繰り返しても運命を変える事は出来ない、ここは命が行き着く果て^{定め}。

「シズメシズメシズメ」

もう運命に身体を委ねよう、何をしても無駄なんだ
君達も分かっているんでしょう？私はどうに諦めた

そういう事さ、痛みを繰り返すだけ、これは救いの無い物語。

「シズメシズメシズメ」

君達を苦しませたく無い、せめて一思いに沈んで、沈んで
努力なんとしても何も変わらない、全ては運命に集約する。

私は何をしても無駄だつた、どれだけ繰り返そうと運命は変わらない。

「シズメシズメシズメミナサイ…」

何故諦めないの？私の姿は運命に抗つた罪。

貴方達までこんな思いはして欲しくない。だからせめて、沈んで。
私が私である内に。

もう期待なんかしていない。

それでももし、君達が未来の海へ繋いで行くのだとしたら。
私が出来なかつた、運命を変える事が出来るのだとしたら。

嵐の海を越えて行くんだ。

渚を超えて其処へ辿り着くんだ。

波の向こうの光の中に。

紅く染まつた海から、繰り返す命を誇りと共に解き放つんだ。

今の私はもう二度と戻れない、

貴方達が全ての願いを背負つて、この戦いを終わらせるなら。

この私を倒して進むんだ。この先には何も無い
だけきつと貴方達なら前に進めるのでしょうか。^歟

進むがいい、世界の真実を知ったとしても、それでも立てるなら。

いつかあの海で。

この運命すらも壊せるだろう。

進むがいいさ。

私は静かな海に戻れる事を祈つてゐる。

こんな腐った海にも一つくらい奇跡が起きたつておかしく無いだろう？

「シズメシズメシズメ」

……うるさい

私は彼女達に願いを託したいだけなんだ

「シズメシズメシズメ」

失つてばかりはもう嫌なんだ。

彼女を残した事だけが私の心残りだった。

でも「其処」に彼女は居た。狂った海で彼女は戦っていた。

「シズメシズメシズメ」

私の様に醜い姿にはなつて欲しくは無い。

でも彼女なら出来る筈だ、根拠は無い。

それでは姉が妹を信じては行けないのか？

否。否否否否否否否否否否。

「シズメシズメ」

記憶が蘇る、あの日私に微笑んでいたのは彼女だつた。
信頼していたんだ。私は彼女を。

「シズンディケ」

終わるのは私だ。彼女達に未来を託す。

それだけがこの戦いを終わらせられるかも知れ無い唯一の手段。
光すら届かない場所で一筋の光を見たんだ。

それはきっと。

「希望なのだから」